

# 設問の意図把握する力を

勉強しようと思えば机に向かって、何から始めたらいいのかわからない。そんな受験生も多いのではないだろうか。「播磨の高校入試」の最終回は、中・西播磨地域に学習塾14教室を展開するジェイ教育セミナー（本部事務局・姫路市）の教室統括部長林秀和さんに、2学期からの受験勉強のこつや志望校選びについて教えてもらいました。

—中3の2学期はどのように過ごせばいいですか。

「3年の2学期で学ぶ社会や理科、数学などの新しい分野は入試に頻出します。これまでの復習や苦手分野の克服にも並行して取り組まないといけません。公立高校入試の合否判定には副教科の成績も反映されるので、5教科以外の授業もおろそかにはできません」

—志望校選びのこつは。

「高い目標を持つことです。そこに向かって勉強すれば選択肢が増えます。学区再編の影響で上位校の姫路西や姫路東、龍野などの次に来る中堅校の倍率が高くなる傾向にあります。受験倍率も毎年バラバラで予想は困難ですが、じっくり考えてください」

—家庭学習の仕方は。

「部活動を引退し、受験勉強

## 林秀和さんに聞く

## ジェイ教育セミナー教室統括部長



中3生に向け受験のアドバイスをするジェイ教育セミナーの林秀和さん

に使える時間が増えました。帰宅から夕食までの1時間半くらいの時間を活用してください。『数学の復習を1時間』など、スケジュールを立て、目的を持って机に向かって下さい」

—スマートフォンが勉強の邪魔になっている受験生も多いようです。

「スマートフォンが手の届く範囲にあると勉強に集中できません。塾では保護者の了承を得て、一定期間お預かりすることもあります。勉強中は自室に置かず、電源を切るなどのルールづくりが必要です」

—一般入試の対策は。

「今春の一般入試を分析すると、苦手と得意の生徒が分かれる英語は点差がつきやすい。数学と国語は80点以上の生徒が少なく、高得点を取りにくかったようです。どの教科も問題文や設問の分量が増えています。的確に問題文を読み、設問の意図を把握する国語力が必要です」

—教科別では。

「英語は、全体の単語数が増えており、長文問題が一層長く

なっている傾向があります。数学は、複数の分野を組み合わせた総合問題など難しいものもあります。基礎の問題を取りこぼさないことが大切です」

「国語は、資料問題、漢文、古文、小説、論説文の順番で、最後に時間が足りなくなった人が多かった。論説文から解き始めるなど順番を工夫してみるのも一つの手。苦手と得意な分野を把握し、日々新聞を読むなどして読解力をつけてください」

「理科は資料や問題文の分量が増えていて、問題集や過去問を解いて慣れてください。社会は、地歴・公民ともに教科書を読み込み、知識を定着させること。特に歴史は語句の暗記だけではなく、流れを把握することも大切です」

—最後に、復習はどうやってすればいいですか。

「復習がおろそかになっていない受験生が多いです。学校のテストや問題集で間違えた問題を解き直すだけで力が付きます。2学期にしっかり力をつけて、2、3月の本番に挑みましょう」

（井上 駿）